

# 激動の幕末・明治維新史料

## 第12回 講義 大政奉還 (中村先生)

この写真は9月22日に行った万博記念公園の彼岸花です

3班広報担当2022年10月4日

特別講座激動の幕末・明治維新史料の第12回講義が10月4日(火)開催されました。10月最初の授業です。入口でいつも通り、マスク着用・確認・検温・手消毒を受けました。

2022年新撰組展を(史料から辿る足跡)を京都文化博物館で10月1日から11月27日まで開催中で中村先生も出品物を出されているそうです。

・講義は2週間振りで元治甲子戦争については途中まで戦争過程の話をされていましたと、前置きされ「元治甲子戦争」のつづきと第一次長州征討を講義された。

1.元治元年6月11日、君公毛利慶親は池田屋事件以後の京都の詳細を知り、臨時出兵をしばらく見合わせることを勧めてきたのだ。さらに興味深いのは、来島又兵衛が「一応可然(シカルベキ)トノ説」だったのを、入江九一・久坂義助らがしたがわなかったことである。この時期にきて片時の猶予もなりがたしと言ひ張り、ついに乗船・出発した。

2.「元治甲子戦争」の様子と追跡の新選組の活躍。この戦争で近藤勇は地位を上げたと思われる。長州は真木和泉が味方(長州)の落ち延びるために天王山に立てこもり自害した。その総勢20数名に及んだ。

3.イギリス留学中の5名のうち伊藤博文、井上馨らが下関攻撃の話を聞きつけ急遽帰国した。政治的解決がつきそうであったが、現場で小競り合いになり戦争になった。

4.元治元年(1864)8月5日、英仏米蘭連合艦隊による下関砲撃(~7日)。毛利家敗北。7日、慶喜が連合艦隊の摂海侵入を危惧して軍事奉行勝義邦に退去措置を命じる。14日、毛利家が講和条約調印。19日、慶喜が使者を江戸に派遣。将軍家茂の進発をうながす。22日、禁裏が毛利父子の位階官職を停止(従四位上・参議(大膳大夫)左近衛権中將、従四位下・左近衛少將・長門守)。公儀は「松平」称号没収、偏諱褌(ち)奪(慶親→敬親、定広→広封)。公民権剥奪。

5.23日、公儀が列強に横浜鎖港方針撤回を通達。あわせて老中阿部正外上京し関白二条斉敬に伝える。禁裏は対外問題を長州征討のあととする。10月5日、尾張慶勝が征長総監に就任(副総監は越前茂昭)。

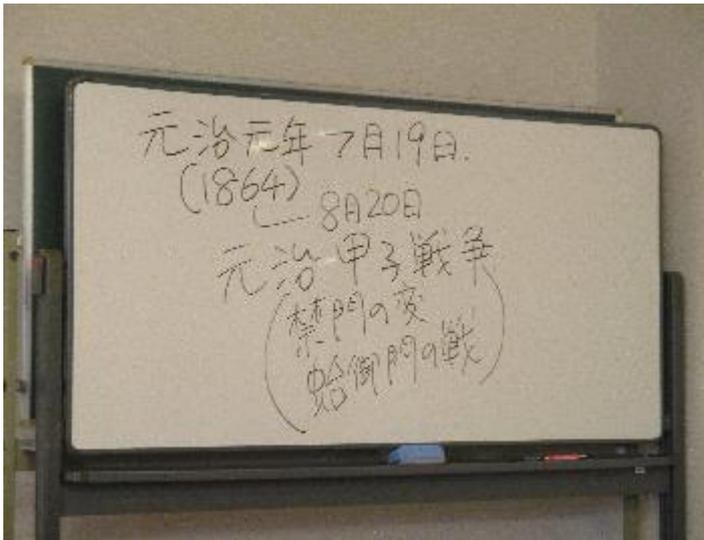
6.イギリス公使オールコックが将軍に対して「鎖港方針の根源はミカドにあり」「全面戦争のおそれあり」と通告。

7.10月1日、慶喜や老中阿部正外が参内。しばらく横浜鎖港をにおいてすみやかに長州征討を進めるべきと天子が命じる。あわせて阿部に対して将軍家茂上洛を督促させる。2日、阿部は離京・帰東する。

8.西郷は勝海舟の公議政体=共和制にいたく感心したが、島津久光の反対で逆らえなくなり、今の海軍ではいづれ長州のつぎは薩摩になると判断反対。西郷も小松帯刀のとりなしで了解。11日、三家老(益田右衛門介、福原越後、国司信濃)が徳山で切腹(~12日)。12日萩では穴戸左馬之助(九郎兵衛)・中村九郎・竹内正兵衛・佐久間左兵衛が斬首。清水清太郎切腹。征長総督尾張慶勝は穩便に済ませる。19日、尾張慶勝が毛利家に対して服罪書の提出。山口城破却、三条実美らは移動)を命令。

9.長州内部で急進派と保守派の抗争があり、騎兵隊は保守派の政策に従いながら行っていたが、諸隊の中の力士隊(高杉晋作の意見に賛同)、遊撃隊が話にのり、下関の軍艦を抑え、会所を抑えた。これに対し尾張慶勝は長州の内乱と受け止め征長軍を解く。

10.勝海舟の公議政体=共和制に旗本のなかで辞めさせるべきと意見がでたので、勝海舟が立てた神戸海軍総連所が潰され、勝海舟は海軍の知識のある土佐藩士たちが薩摩に行くことになり、小松帯刀が坂本龍馬以下を預かり坂本龍馬は「薩長同盟」に回った。



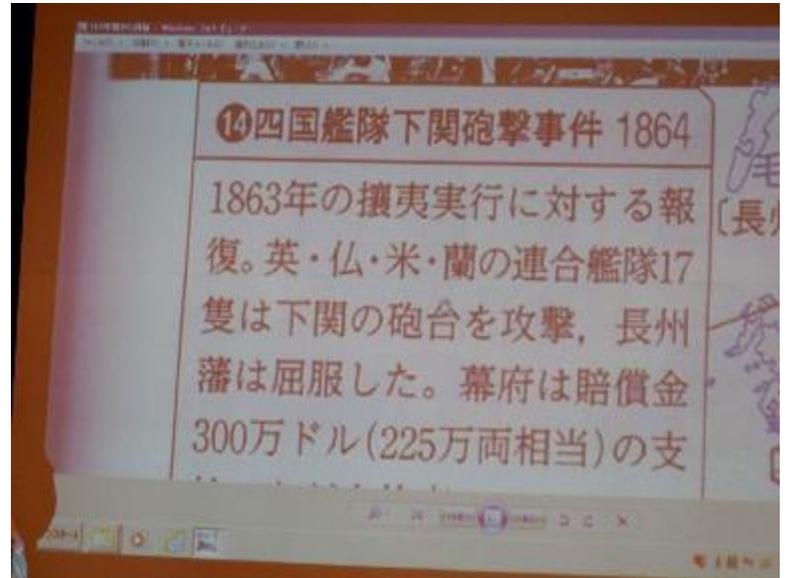
「元治甲子戦争」の状況説明など



唐門と蛤御門のと絵図の説明



四国艦隊下関砲撃事件の説明—①



四国艦隊下関砲撃事件の説明—②